

伊豆の頼朝（大茂木慶山）

源家の曹子流謫に甘んじ

私かに聖賢の道義を問う

文覚訪ね来たつて髑髏を示す

平家を打倒して世を平らかにす可し

頼朝面を潤して再起を誓う

精兵結集して足下を埋む

坂東武者真に果敢

源氏の武名天下に轟く

作者 大茂木慶山は青柳流劍詩舞道家元・青柳芳寿朗のペンネーム。現在は日本吟劍詩舞振興会評議委員を務めている。

解説 源氏の嫡流・源頼朝が伊豆に流されており、文覚も後白河法皇に伊豆へ流されます。文覚は頼朝を訪ね挙兵を進めますが頼朝は躊躇する。そこで文覚は後白河法皇の院宣を給わり、頼朝のもとに持つていく。頼朝はこの院宣を掲げて挙兵したと伝えていきます。

語釈 ※伊豆⇨平安時代の流罪には、遠流と中流 近流の、三種類が存在しており、伊豆はそのうちの遠流の対象国。 ※頼朝⇨平安時代末期から鎌倉時代初期の日本の武将、政治家。鎌倉幕府の初代征夷大將軍。 ※源家⇨源氏の一族。 ※曹子⇨源氏の嫡流の子息。 ※流謫⇨遠方に流されること。 ※私⇨ひっそりと。 ひそかに。 ※聖賢⇨聖人と賢人。 また、知識・人格にすぐれた人物。 ※道義⇨人のふみ行うべき正しい道。 道理。 ※文覚⇨平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての武士・真言宗の僧。 頼朝の配流地の伊豆から福原京の藤原光能のもとへ赴いて後白河法皇に平氏追討の院宣を出させるように迫り、頼朝にわずか八日で院宣をもたらした。 ※髑髏⇨後白河法皇の院宣を仲介して、頼朝に挙兵を促した時に持参した頼朝の父・源義朝の髑髏。 ※再起⇨再び立ちあがること。 ※精兵⇨えりすぐった強い兵士。 ※足下⇨足もと。 ※坂東武者⇨関東生まれの武士。 勇猛で知られた。 ※果敢⇨決断力に富み、物事を思いきってするさま。

通釈 源氏の嫡流・源頼朝は流罪に甘んじていたが、密かに自問自答していた。そこに文覚が現れ、父・源義朝の髑髏を示し、後白河法皇の院宣を仲介して平家打倒を迫った。頼朝は感激して源氏の再建を誓い、精兵を結集して足下を固め、平家打倒を目指した。坂東武者は果敢に平家を追い詰め、その武名は天下に轟いた。